

入門看護

第5回

生地

本日のレジュメ

- ・人間観の発表
- ・人間の成長・発達の過程

人間とは(辞書をひくと…)

- 人の住んでいる世界、世間
- ヒト、人類
- 人間の歴史、人間の社会
- 人柄、人格、人物
- 人の住む世界、人間界、世の中

人間とは（フローレンス・ナイチンゲール）

- 看護者の活動の対象となる人間、あるいは環境の影響を受ける人間
- 人間は、病気に対処する回復力を持っている。回復に適した安全な環境を用意すれば、患者はその力の及ぶ限り自分で回復することができる

人間とは（ヒルデガルト・ペプロウ）

- 人間とは個人である。家族、集団、あるいは地域社会は含まれない
- ニーズによって生じた不安を減らそうと努力する発達途上の組織体である
- 人間は不安定な平衡状態にある

人間とは（バージニアA・ヘンダーソン）

- 健康および自立性を獲得するため、あるいは安らかな死を迎えるために援助の必要な個人。
- 人間と家族は一つの単位
- 身体からも精神からも影響を受ける
- 生物学的、心理学的、社会学的、および精神的な要素から成り立っている

人間とは(バージニアA・ヘンダーソン) 続き

- 自立した状態に達するために努力している
- 生存のための基本ニーズをもつ
- 体力、意志力、あるいは知識が不足しているために、健康な生活を送るのに必要な活動を行うことができない

人間とは（ドロセア・E・オレム）

- 看護の受け手である。生物学的、象徴的、および社会的に機能する存在であり、学習と発達の可能性を持っている
- 自然の作用を受け、自己認識の能力をもつ個人であり、意図的な行為に携わり、経験を解釈し、有益な行為を行うことができる
- セルフケアの要件を満たす方法を学ぶことのできる個人である。

人間の成長・発達の過程とは

- ・ 人間が人間的な環境の中で生活様式を一つ一つ学びながら、人間として形成されていく過程

- ・ 新しい生活様式を生み出し、それを子孫に伝えていく過程

- 成長とは：

人や動植物が育って大きくなること。
おとなになること
物理的な成熟のこと

- 発達とは：

人の心身、および社会的な諸関係の
量的・質的な変化
機能的な成熟のこと

人間発達に関する諸理論

<アリストテレス>

生命体には自己実現への潜勢力が内在する

<ロック>

子供は生まれついた時には善良でも邪悪でもなく、
学習と経験が人間の精神をつくりあげていく

<ルソー>

子どもは生まれるとき、すでに自分自身の感性を
備えている

現代の発達理論

<ゲゼル>

人間の行動様式は偶然の産物ではなく、規則的な過程を経て胎児・乳児・幼児・成人へといずれも人間として成長していく

<ピアジェ>

自己中心性から社会性へという社会化のプロセスが発達である

フロイトの精神分析理論

人はリビドーと呼ばれる

性（生）的エネルギーをもって生まれる

①口唇期（出生からほぼ1年間）

②肛門期（1歳から3歳まで）

③男根期（3～5歳）

④潜伏期（5,6歳から思春期まで）

⑤性器期（思春期）

A pink banner with a wavy, ribbon-like shape and a blue outline, containing the text '精神性的な発達論' in white.

精神性的な
発達論

エリクソンの生涯人間発達論

<死>

老年期	8段階	統合	英知	絶望・嫌悪
壮年期	7段階	世代性	世話（ケア）	停滞
成人初期	6段階	親密性	愛	孤立
青年期	5段階	アイデンティティ	誠実	同一性拡散
学童期	4段階	勤勉性	有能感	劣等感
幼児期	3段階	自主性	目的	罪悪感
幼児初期	2段階	自律性	意志	恥・疑惑
乳児期	1段階	基本的信頼	希望	基本的不信

<誕生> （ポジティブな面） 成長させる面 （ネガティブな面）

精神社会的な発達論

例えば・・・

<乳児期>

基本的信頼 対 基本的不信

このような発達課題を達成される中で獲得されるものは・・・

希望

人間とは、さまざまな学びを通じて「自我の統合」という究極の目的に向けて発達していく存在である

乳児期（生後 0 ～ 1 歳）

- 保護者に全面的に依存
- 人間としての基本的な特徴を身に付け始める時期
- 母体から得た免疫が失われる時期
- 保護者の愛情と注意深い観察に支えられて人間として成長していく

幼児期（1～5歳頃）

- 心身の成長・発達の著しい時期
（心身の均衡が崩れやすい時期）
- 親からの身体的な自立と自発行動
- 基本的な生活習慣の獲得
- 人格形成の基礎づくり
- 社会の広がり

学童期（6～12歳頃）

- 集団生活の中で社会性を身に付ける時期
- 学校集団の中で組織的に知識を習得し、集中的に学習するのに適した時期
- 学習と遊びの分化
- 全般的には身体面でも情緒面でも安定した時期

青年期（13～19歳頃）

- 身体的な成長が著しい
- 第二次性徴がみられる
- 異性への関心が高まり、自我意識が著しくなる
- 家族からの独立と親密な友人関係
- 子供から大人への移行期（不安定な時期）

成人期（20～60歳頃）

- 心身共に成熟し、社会活動に参加する時期
- 結婚し、新しい家族集団を作り、親として子どもの人格形成を助ける
- 職業集団の中で役割を果たす

老年期（65歳以上）

- 身体各部の老化がみられる
- 身体的機能、精神的機能の衰退の個人差が大きい

看護の役割

- ・ 人間の成長・発達過程と基本的欲求との関係を理解する

一人一人がその個性を生かし、社会に適応して生きていけるよう援助する

成長・発達の段階に応じて、人間の基本的欲求は変化するということを頭に入れておくこと